

# 公立小学校における部活動の実態に関する研究

## —愛知県の学校経営案を分析対象として—

Researching the state of extracurricular activities at public elementary schools

—Analyzing the case of a school management plan from Aichi prefecture—

小阪成洋 (教育学領域)

### 1. 本研究の目的および意義

小学校に「部活動」があるというが、果たしてどれほど存在しているものなのか。これが、本研究の素朴な問いである。

小学生の放課後の過ごし方は様々であり、学校外の営みも多い。そうした中、学校教育がとりわけ能動的に居場所を提供しているのが部活動である。部活動は、中学校や高等学校の営みとして広く知られているが、小学校にもいわゆる「部活動」という営みが存在している。しかしながら、どのような営みが、どの程度存在しているのかは明らかになっていない。これを明らかにしたいというのが本研究の目的である。

小学校における部活動についてはその実態の大部分は未だ謎に包まれている。本研究では、実態解明の端緒として部活動が盛んである愛知県の実施状況を明らかにした。

### 2. 関連研究について

小学校部活動に関する研究は様々あり、それぞれ重要な知見を含んでいるが、総花的に存在している感が拭えない。本研究では、これらの研究では明らかにされていない小学校部活動の実施状況および実態について具体的に明らかにしようと試みる。

### 3. 使用するデータ

愛知県内の公立小学校 708 校<sup>1</sup>すべての平成 29 年度「学校経営案」を分析対象として参照する。補章のみ、愛知県春日井市の平成元年度から 30 年度の学校経営案を分析対象として参照する。

平成 29 年度、部活動が存在した 650 校について、すべての部活動を数え上げたところ、計 3040 部の掲載を確認できた。3040 部について、8 項目<sup>2</sup>のデータ

を集約して表 1 に示した。⑤～⑦については、学校単位で定められおり、部活動 1 つ 1 つに関して定められているものではないため、部活動ごとに集計できない項目となっている。さて、総部活動数 3040 部を母数として、各項目の掲載率<sup>3</sup>を示した。掲載部数を百分率にしたのが「掲載率 (%)」である。

表 1 部活動に関する項目の掲載状況について

|                | 部活動について経営案に   |        |        | 計       | 掲載率 (%) |
|----------------|---------------|--------|--------|---------|---------|
|                | 掲載あり          | 掲載なし   | 計      |         |         |
| 小学校数           | 708校          |        | 708校   |         |         |
| 総部活動数          | 3,040部        |        | 3,040部 |         |         |
|                | 650校          | 58校    | 708校   |         |         |
|                | 掲載部数          | 未掲載部数  | 計      | 掲載率 (%) |         |
| ① 部の名称         | 3,040部        | 0部     | 3040部  | 100     |         |
| ② 参加者数(部員数)    | 2,517部        | 523部   | 3040部  | 82.8    |         |
| ③ 部に参加している学年   | 1,496部        | 1,544部 | 3040部  | 49.2    |         |
| ④ 部を実施している期間   | 602部          | 2,438部 | 3040部  | 19.7    |         |
| ⑤ 活動の目標・内容     | ※この項目の掲載は学校単位 |        |        |         |         |
| ⑥ 週あたりの平日の実施日数 | ※この項目の掲載は学校単位 |        |        |         |         |
| ⑦ 平日の実施時間帯     | ※この項目の掲載は学校単位 |        |        |         |         |
| ⑧ 指導者名(数)      | 3,017部        | 23部    | 3040部  | 99.2    |         |

②「参加者数」(以下、部員数)は約 8 割に掲載があった。③「部に参加している学年」(以下、参加学年)は約 5 割に掲載があった。これは各部に何年生が参加しているかを示すものである。④「部を実施している期間」(以下、実施期間)はおよそ 2 割の掲載があった。これは各部が何月に実施されているかが掲載されているものである。⑧「指導者名(数)」は 99.2%の部に掲載があった。

また、本研究においては、名古屋市教育委員会による提供情報を補って愛知県全体を見渡したり、名古屋市と愛知県を比較したりする。

### 4. 部活動の分類 (愛知県)

経営案を参照しながら部活動をすべて数え上げたところ、155 種の名称<sup>4</sup>があった。運動部に 35 種類の名

1 経営案(名古屋市を除く)上は 708 校が存在する(分校 1、義務教育学校 2 を含む)。

2 ⑧については「指導者名」をカウントし、人数を数量データとした。

3 [掲載率] = [掲載部数] ÷ 3040 × 100

4 「バスケット」「バスケットボール」「ミニバス」「ミニバスケットボール」の名称については、指し示しているものが明確に同一のバスケット部であったため、本研究では例外的に名称の区別をせず、「バスケット部」として数え上げた。

称が存在していたのに対して、文化部には120種類の名称が存在していた。文化部には、より多様な名称が存在しているということになる。

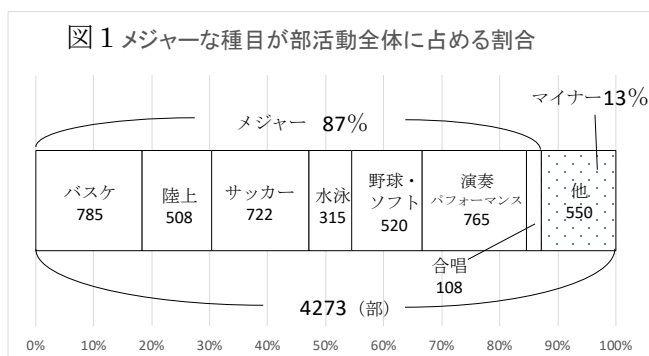
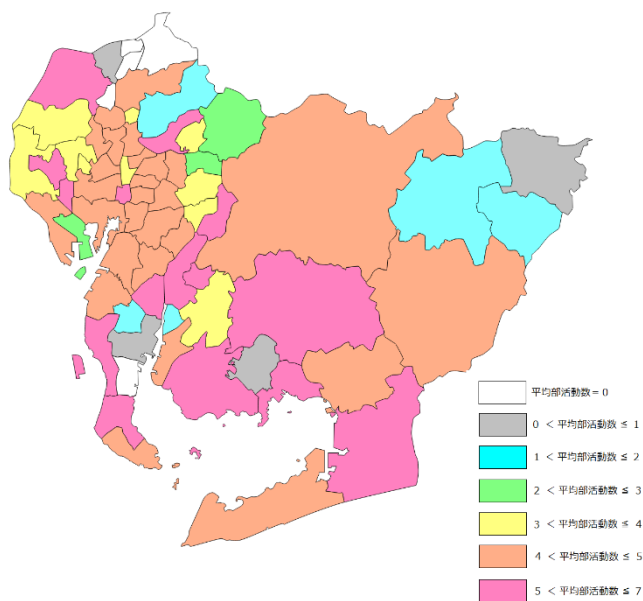


図1は、運動部、文化部においてそれぞれ88%、83%を占めた種目をメジャー、それ以外をマイナーとして全体を見渡したものである<sup>5</sup>。割合として大きいのは、「バスケット」、「陸上」、「サッカー」、「水泳」、「野球・ソフト」、「演奏」、「合唱」であり、部活動の87%はこれらメジャーな種目に占められている。愛知県全域に多く存在する部活動はこれらの種目である。マイナーな種目はわずかに存在するのみである。名古屋市と愛知県をあわせた969校につきマイナー種目550部であるから、およそ2校に1部程度の存在割合である。

## 5. 平均部活動数の市区町村マップ (愛知県)

図2 1校あたりの平均部活動数の市区町村分布



<sup>5</sup> 名古屋市を含む。

<sup>6</sup> 活動種が2つの部にまたがる7つの部（「陸上・ロードレース」4部、「陸上・駅伝」2部、「バス・合唱」1部）について、2つの部それぞれで活動しているものとして二重にカウントした。

市区町村ごとの1校あたりの平均部活動数を地図で確認しよう。図2は、1校あたりの平均部活動数を地図として描出したものである。さて、地図上の白色部分は部活動が存在しない地域である。灰色の部分は、値が小さく、部活動がほぼ存在しない地域である（平均部活動数が0より大きく1以下）。このうち豊根村（地図上の北東）には小学校が1校のみ存在し、その小学校に運動部が1つあるため、豊根村にある全小学校が部活動を有しているということになる点に留意が必要である。地図上の北西は江南市で、1校あたりの平均部活動数は0.3と小さい。地図の南側は西から順に半田市0.14、幸田町0.33が小さい値をとっている。これらの地域にはほとんど部活動が存在しないといえる。

愛知県内を見渡すと、平均部活動数の大きい地域から小さい地域が、あちらこちらに分布していることがわかる。名古屋市については、全体的に分布に大きな差がない状態となっている。例外として、中区（黄色）が小さく、熱田区・守山区（赤色）が大きいが、この3区のみである。他13区については1校あたりの部活動数は4~5つであり、名古屋市内には大きな地域差はない。政令指定都市として、足並みが揃っている印象である。一方で、愛知県については地域差を認めざるを得ない。

## 6. 部員数 (愛知県 ※名古屋市を除く)

表2 運動部と文化部の部員数

|     | 総部活動数<br>(部) | 部員数を掲載している部の数(部) | 掲載率<br>(%) | 部員数<br>計(人) |
|-----|--------------|------------------|------------|-------------|
| 運動部 | 2,230        | 1,799            | 80.7       | 80,673      |
| 文化部 | 817          | 723              | 88.5       | 24,955      |
| 全体  | 3,047        | 2,522            | 82.3       | 105,628     |

| 総部員数の推計(人) | 1部あたりの部員数の平均(人) |
|------------|-----------------|
| 100,000    | 45              |
| 28,199     | 35              |
| 128,199    | 42              |

表2によると、部活動全体では3,047部<sup>6</sup>が存在している。運動部、文化部の数はそれぞれ2,230部、817部である。部員数が掲載されている部の割合は82.3%である。掲載のあった部員数をすべて集計すると105,628人となった。掲載率が100%であれば、より大きく、本来の値となる。そこで、各掲載率から運動部、文化部の部員数<sup>7</sup>を推計<sup>8</sup>したところ、それ

<sup>7</sup> [1部あたりの部員数の平均(人)] = [部員数計(人)] ÷ [部員数を掲載している部の数(部)]

<sup>8</sup> [総部員数の推計(人)] = [部員数計(人)] × [総部活動数(部)] ÷ [部員数を掲載している部の数(部)]

ぞれ 100,000 人、28,199 人、となった。1 部あたりの部員数の平均は、運動部 45 人、文化部 35 人、全体では 42 人となった。運動部員数は約 10 万人、文化部員数は約 2 万 8 千人と算出された<sup>9</sup>。合わせて約 12 万 8 千人が部活動に参加している推計となる。

### 7. 部活動を実施している期間（愛知県 ※名古屋市を除く）

部活動の実施期間について、表 3、4 を参照されたい。運動部、文化部についてそれぞれの実施期間を示した。年間 9 ヶ月以下の実施をしている部を「シーズン制」とした。年間 10 ヶ月以上の実施を「常設」とした。「未掲載」が多い点に留意が必要である。経営案に実施期間が掲載されていたのは、運動部 22%、文化部 14%とわずかである。

表 3 運動部の実施期間

| 運動部                   | 陸上  | 駅伝 | バスケット | サッカー | 水泳  | 野球・ソフト | バレーボール | 自転車 | 卓球 | 武道  | 総合運動 | その他 | 計     |
|-----------------------|-----|----|-------|------|-----|--------|--------|-----|----|-----|------|-----|-------|
| 未掲載                   | 346 | 45 | 428   | 379  | 209 | 116    | 79     | 37  | 39 | 33  | 19   | 14  | 1,744 |
| 掲載数                   | 148 | 17 | 104   | 85   | 84  | 5      | 10     | 15  | 7  | 1   | 5    | 5   | 486   |
| 各部の総数                 | 494 | 62 | 532   | 464  | 293 | 121    | 89     | 52  | 46 | 34  | 24   | 19  | 2,230 |
| 掲載率(%)                | 30  | 27 | 20    | 18   | 29  | 4      | 11     | 29  | 15 | 3   | 21   | 26  | 22    |
| シーズン制                 | 144 | 16 | 61    | 39   | 82  | 2      | 7      | 13  | 4  | 1   | 4    | 4   | 377   |
| 常設                    | 4   | 1  | 43    | 46   | 2   | 3      | 3      | 2   | 3  | 0   | 1    | 1   | 109   |
| シーズン制(%)              | 97  | 94 | 59    | 46   | 98  | 40     | 70     | 87  | 57 | 100 | 80   | 80  | 78    |
| 常設(%)                 | 3   | 6  | 41    | 54   | 2   | 60     | 30     | 13  | 43 | 0   | 20   | 20  | 22    |
| 部活動数全体に占めるシーズン制の割合(%) | 29  | 26 | 11    | 8    | 28  | 2      | 8      | 25  | 9  | 3   | 17   | 21  | 17    |

表 4 文化部の実施期間

| 文化部                   | 演奏  | 演奏+パフォ | パフォーマンス | 合唱 | 和演奏 | 和芸能 | 園芸 | 自然環境 | パソコン | 科学 | 書道 | 美術 | 総合文化 | ものづくり | 図書 | その他 | 計   |
|-----------------------|-----|--------|---------|----|-----|-----|----|------|------|----|----|----|------|-------|----|-----|-----|
| 未掲載                   | 386 | 15     | 97      | 68 | 22  | 16  | 24 | 15   | 13   | 8  | 3  | 7  | 7    | 6     | 3  | 9   | 699 |
| 掲載数                   | 70  | 7      | 14      | 7  | 7   | 3   | 0  | 1    | 3    | 0  | 4  | 0  | 0    | 1     | 0  | 1   | 118 |
| 各部の総数                 | 456 | 22     | 111     | 75 | 29  | 19  | 24 | 16   | 16   | 8  | 7  | 7  | 7    | 7     | 3  | 10  | 817 |
| 掲載率(%)                | 15  | 32     | 13      | 9  | 24  | 16  | 0  | 6    | 19   | 0  | 57 | 0  | 0    | 14    | 0  | 10  | 14  |
| シーズン制                 | 17  | 1      | 10      | 5  | 2   | 1   | 0  | 1    | 0    | 0  | 2  | 0  | 0    | 1     | 0  | 1   | 41  |
| 常設                    | 53  | 6      | 4       | 2  | 5   | 2   | 0  | 0    | 3    | 0  | 2  | 0  | 0    | 0     | 0  | 0   | 77  |
| シーズン制(%)              | 24  | 14     | 71      | 71 | 29  | 33  | -  | 100  | 0    | -  | 50 | -  | -    | 100   | -  | 100 | 35  |
| 常設(%)                 | 76  | 86     | 29      | 29 | 71  | 67  | -  | 0    | 100  | -  | 50 | -  | -    | 0     | -  | 0   | 65  |
| 部活動数全体に占めるシーズン制の割合(%) | 4   | 5      | 9       | 7  | 7   | 5   | 0  | 6    | 0    | 0  | 29 | 0  | 0    | 14    | 0  | 10  | 5   |

運動部の「シーズン制」は、「陸上」29%、「駅伝」26%、「水泳」28%、が目立つ。おそらく、「水泳」は夏季限定での実施、「陸上」と「駅伝」は大会前のみの実施をしているものと推察される。文化部の「シーズン制」は、「書道」29%が目立つ。経営案によれば「書道」は春日井市限定の部活動であり、書道コンクールに向けて短期間の部活動を設けているものである。その他、「シーズン制」は、広く様々な種目に見られる。

### 8. 部活動の位置づけ（愛知県 ※名古屋市を除く）

各小学校は部活動をどのように位置づけているのか。

<sup>9</sup> 全体の総部員数の推計は、運動部数と文化部数の和から求めている。そのため、計算上の誤差が生じ

経営案には、「学校運営機構」が掲載されている。これは職員の業務分担の一覧表である。部活動は課外活動であり、教育課程に含まれない。それでは、部活動は、この業務分担の一覧表に登場しているのだろうか。登場しているとすれば、どのような記載のされ方となっているのだろうか。表 5 に、愛知県内（名古屋市を除く）の小学校の経営案について、その掲載状況を示した。

部活動に関する掲載がなかったのは 118 校であり、このうち 58 校には部活動が存在していない。部活動を実施しながらも、学校運営機構に部活動について未掲載の学校は 60 校存在している。590 校には、部活動について学校運営機構に何らかの掲載があった。内訳としては、最多は「部活動」および「部活」として掲載されていた 410 校。また、具体的な部活動種目名を掲載していたのは 11 校。これらもあわせると、421 校が「部活動」という表記を用いていた。これ以外で目立つのは、「課外活動」、「課外クラブ」などの「課外」を冠する表記が 131 校あった。

表 5 学校運営機構における「部活動」の表記

|               |     |
|---------------|-----|
| 部活動 / 部活      | 410 |
| (具体的な部活動種目名)  | 11  |
| 課外活動 / 課外クラブ  | 131 |
| 特別クラブ         | 29  |
| 特別指導          | 5   |
| 特色ある活動        | 2   |
| 特別練習          | 1   |
| 強化クラブ活動       | 1   |
| (部活動に関する記載なし) | 118 |
| 計(校)          | 708 |

部活動は教育課程外の教育活動であるが、708 校のうち 320 校が教育課程内の特別活動に位置づけていた。愛知県では、「部活動は教育活動として必須である」という教諭の認識につながっていることが伺われる。

### 9. 教諭の休憩時間と部活動指導（愛知県 ※名古屋市を除く）

小学校教諭の休憩時間を調べたところ、夕方に 30 分間を設けている学校が 708 校中 626 校を占めた。夕方に 15 分以上の休憩時間を設定している学校は 707 校で、夕方に休憩時間を設定していない学校はわずか 1 校のみであった。これでは、部活動を指導している教諭は休憩することができない。愛知県全体が、ハードな勤務を強いる時間設定をしていることになる。

ている。

## 10. 総括

部活動の研究は中学や高等学校を対象として多く存在しているが、小学校を対象とした研究は20件弱と少ない。小学校を対象とした研究群は個別具体的な事例研究であり、いわばケーススタディである。例外として、唯一、青柳他(2018)が全国の運動部の実施状況を明らかにしている。前者をミクロの視点とすれば、後者はマクロな視点である。本研究は、両者の中間のミドルな視点の研究として位置づく。本研究によって、小学校における部活動について、様々な具体的実態が明らかになった。

小学校における部活動は、実施の有無や設置数に大きな地域差がある。これは、受益者である児童にとっては部活動に参加できる機会に地域差があることを意味する。部活動は貴重な学びの場である。充実させられるものならば、充実させた方がよい。しかしながら、部活動を運営するスタッフである教諭の長時間労働が問題となっており、安易に部活動の充実を求めるわけにはいかない。部活動に大きな意義があるとすれば、それ以外の業務を精選することによって、部活動を円滑に実施できるようにするという配慮が必要である。

### ◆主要参考文献◆

- 愛知県教育委員会, 2017, 「平成29年度あいちの教育統計」 <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/257363.pdf> (2018年9月1日閲覧).
- 愛知県教育委員会事務局教育企画課, 2017, 「学校一覧」 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kyoiku-kikaku/0000000044.html> (2018年3月23日閲覧).
- 愛知県教育委員会義務教育課長, 2017, 「平成29年度幼稚園経営案および小・中学校経営案について(依頼)」, 28教義務第892号.
- 愛知県県民生活部統計課人口統計グループ, 2017, 「愛知県人口動向調査結果 年報 あいちの人口(推計) 平成29年」 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/0000077329.html> (2018年8月12日閲覧).
- 青柳健隆・鈴木郁弥・荒井弘和・岡浩一朗, 2018, 「小学校における運動部活動の分布: 市区町村別実施状況マップの作成」, スポーツ産業学研究 28(3): 265-273.
- 藤川正文, 1992, 「小学校における特別クラブの教育効果について: マーチングバンドの活動を通して」, 鳴門生徒指導研究 2: 29-41.
- 神谷拓, 2015, 『運動部活動の教育学入門—歴史とのダイアログ—』大修館書店.
- 形本静夫・青木純一郎, 1991, 「小学校における運動部活動(ミニ・バスケットボール)の運動強度と生理学的効果」 体力科学 40(4): 424.
- 小島秀夫・篠原清夫, 2012, 「回収率の差が調査結果に

与える影響について」, 茨木大学教育学部紀要 61: 55-63.

- 熊本県教育委員会体育保健学校体育係, 2015, 「児童生徒のための運動部活動及びスポーツ活動の基本方針」 [http://kyouiku.higo.ed.jp/page/pub/default.phtml?p\\_id=d6564:2:1:8660&f=s8660\\_1\\_20.pdf](http://kyouiku.higo.ed.jp/page/pub/default.phtml?p_id=d6564:2:1:8660&f=s8660_1_20.pdf) (2018年9月10日閲覧). P.1.
- 松尾晋典, 2013, 「ミニ・バスケットボール時代の経験と競技継続との関連: 女子大学バスケットボール選手の希求の分析をもとに」, 子ども学論集 1: 97-102.
- 大石康晴, 2011, 「熊本市内小学校高学年男女の体格・体力変化に対する運動部活動の影響」, 熊本大学教育学部紀要自然科学 60: 77-82.
- 東海市立緑陽小学校, 2018, 「新春緑陽ひろば」 <http://ryokuyo-e.hatenablog.jp/entry/2018/01/21/151936> (2018年8月16日閲覧).
- 重松雄大・佐田正二郎, 2009, 「ミニバスケットボールチームにおける基本動作獲得による運動能力への影響」, 九州理学療法士・作業療法士合同学会誌 2009(0): 122-122.
- スポーツ庁政策課学校体育室, 2018, 「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」 [http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/kodomo/zenkyo/1401184.htm](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zenkyo/1401184.htm) (2018年9月10日閲覧).
- 高山千代, 1998, 「運動部活動指導者の現状と問題点: 小学校バスケットボール部指導者への調査をもとに」, 新潟青陵女子短期大学研究報告 28: 107-117.
- 樽木靖夫・木村昭雄・高田麻美, 2017, 「学校現場におけるクラブ活動および部活動の課題と対応」, 千葉大学教育学部研究紀要 66(1): 27-34.
- 脇野哲郎・佐藤勝弘, 1996, 「学校スポーツにおけるマネジメントの役割に関する一考察(第2報): 運動部活動の成果の分析」, 日本体育学会大会号 47(0): 600.
- 渡会純一, 2015, 「外部講師と顧問教員との関わり方に関する提言: 小学校吹奏楽活動を中心としたアウトリーチを通して」, 東北福祉大学研究紀要 40: 63-77.
- 吉田浩之・来田宣幸, 2016, 「中学校1年と小学校高学年の部活動における教育目標の検討」, 身体運動文化論攷 15: 1-24.

### ◆資料◆

- 平成29年度愛知県内公立小学校708校の学校経営案  
平成1~30年度春日井市公立小学校の学校経営案